

平成25年度以降の接続料算定の 在り方について

2012年5月18日
ソフトバンクテレコム株式会社

はじめに

この度は、長期増分費用方式に基づく接続料の平成25年度以降の算定の在り方について、意見発表を行う機会をいただき、厚くお礼申し上げます。

次ページより弊社意見を述べさせていただきます。

目次

1. PSTN接続料の課題
2. 改良モデルの課題
3. 課題解決に向けた提案
4. その他委員会での検討事項
5. 参考資料

1. PSTN接続料の課題

2. 改良モデルの課題

3. 課題解決に向けた提案

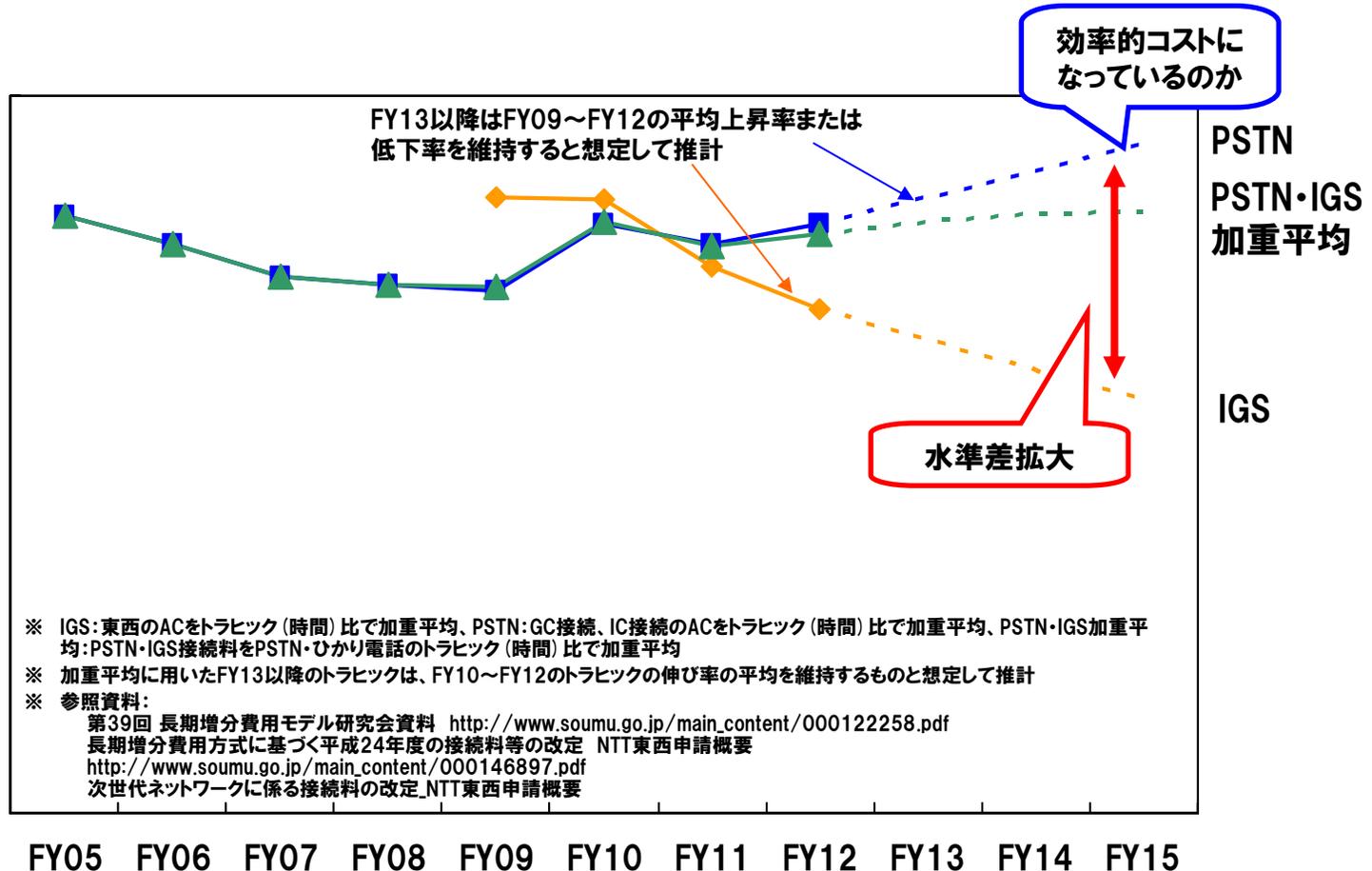
4. その他委員会での検討事項

5. 参考資料

PSTN・NGN (IGS接続機能) 接続料の見通し

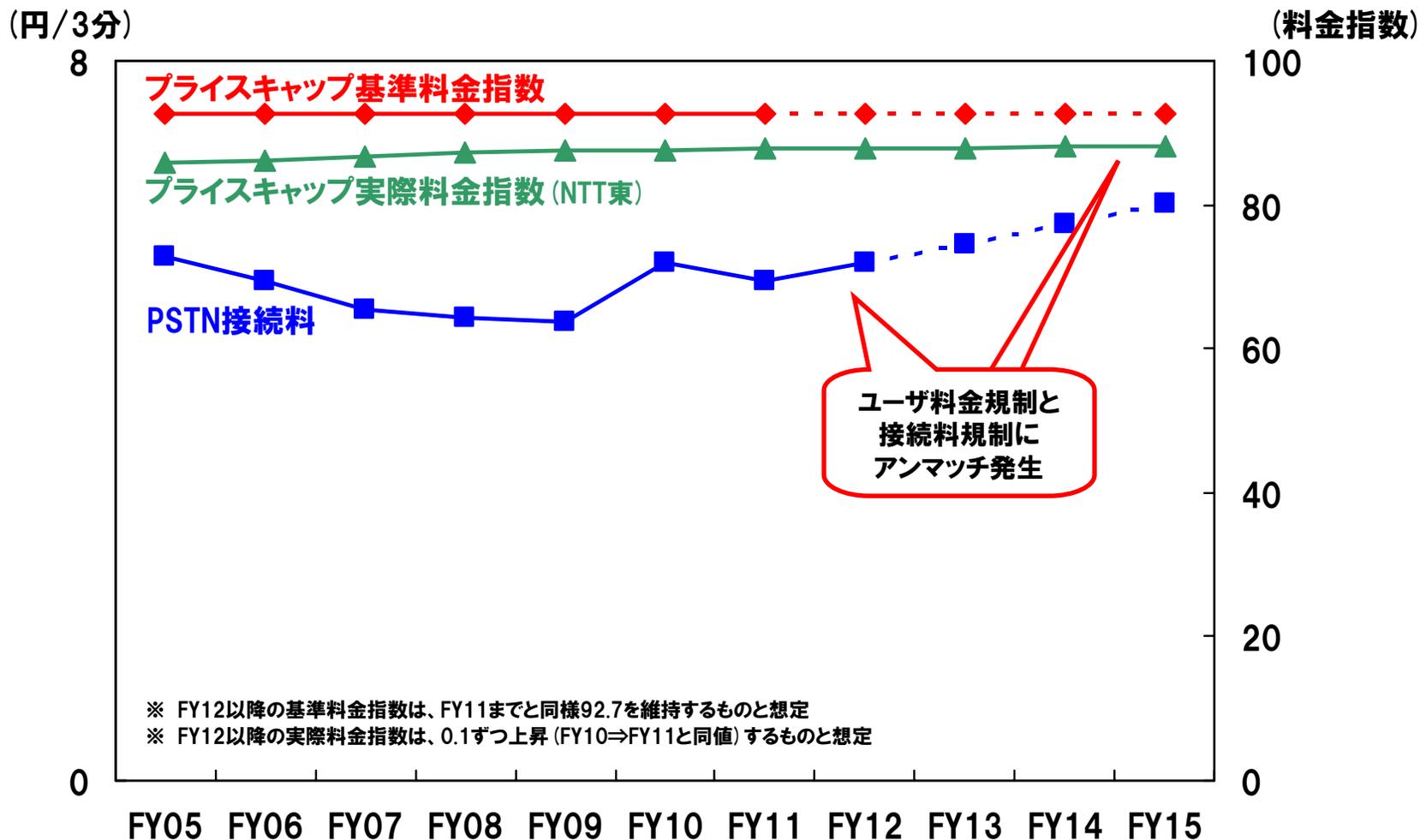
- ・トラフィック減により、FY12以降PSTN接続料は**上昇**の見込み
- ・PSTN・IGSを**加重平均した接続料も上昇**の見通し
- ・また、PSTN接続料とIGS接続料の差は**今後更に拡大**

(円/3分)
7



PSTN接続料・プライスキャップ料金指数見通し

ユーザ料金水準が保たれる一方、接続料は上昇し、
接続事業者の負担増



1. PSTN接続料の課題

2. 改良モデルの課題

3. 課題解決に向けた提案

4. その他委員会での検討事項

5. 参考資料

改良モデルの評価

- ・ 接続料算定の透明性の確保、ボトルネック事業者の非効率性を排除する等の観点で、**LRIC方式は引続き有効**
- ・ しかし、改良モデルについては、以下の課題が存在するため、その**課題を解決するための対策**が必要

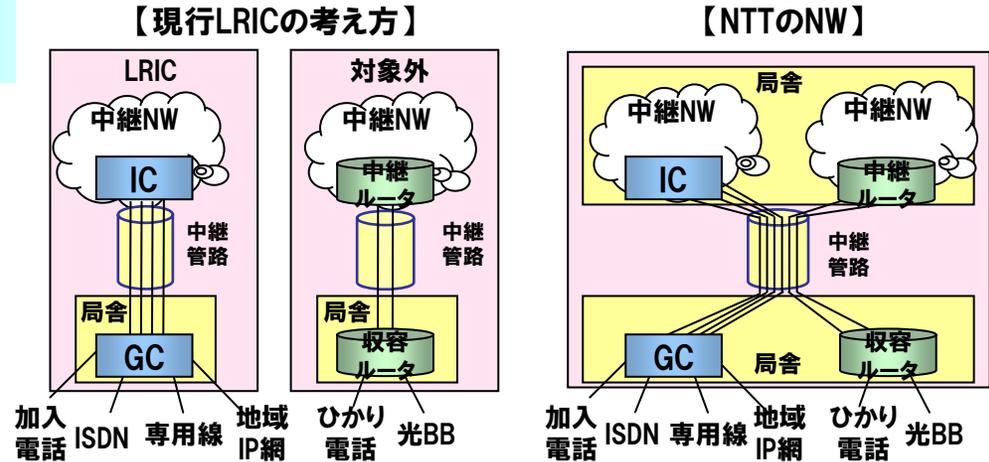
課題

- ① 現実よりもコスト高なLRICモデル
- ② LRICモデルに最新技術が導入されていない

各課題について

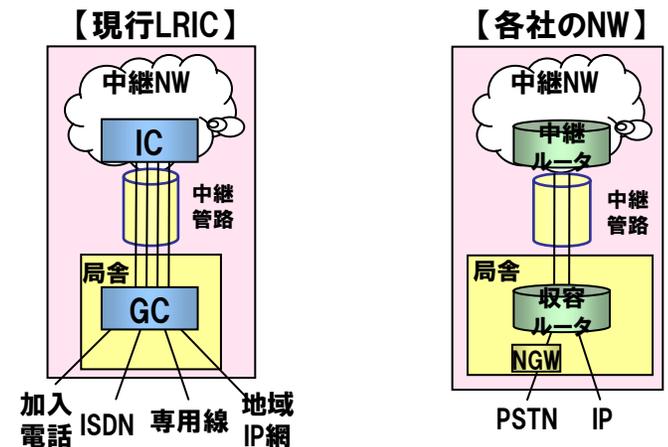
① 現実よりもコスト高なLRICモデル

- ・ NGN (ひかり電話等) の需要が除外されており、設備共用による効率化が反映されていない(**分割損の問題**)
- ・ 新規投資抑制を考慮した耐用年数の長期化をしているものの、実際NWにおける減価償却済みの設備の考慮は不十分(**減価償却費の問題**)



② LRICモデルに最新技術が導入されていない

- ・ 既存のNWを取込みながら、コア網はIP網へ移行が進んでいる
 - ・ 2015年頃までにIP電話契約者がPSTN契約者を上回る見込み【参考①】
- ⇒現時点で最も効率的NWとは言えない



1. PSTN接続料の課題

2. 改良モデルの課題

3. 課題解決に向けた提案

4. その他委員会での検討事項

5. 参考資料

解決策の提案

- ・ 本質的な解決策は、新モデルの開発
- ・ ただし、新モデル開発完了までの短期的な対策として、プライシング施策（補正措置）を加味した改良モデルを適用

課題

解決策案

① 現実よりもコスト高なLRICモデル

改良モデル
+
プライシング施策（補正措置）で調整
非効率コストを排除

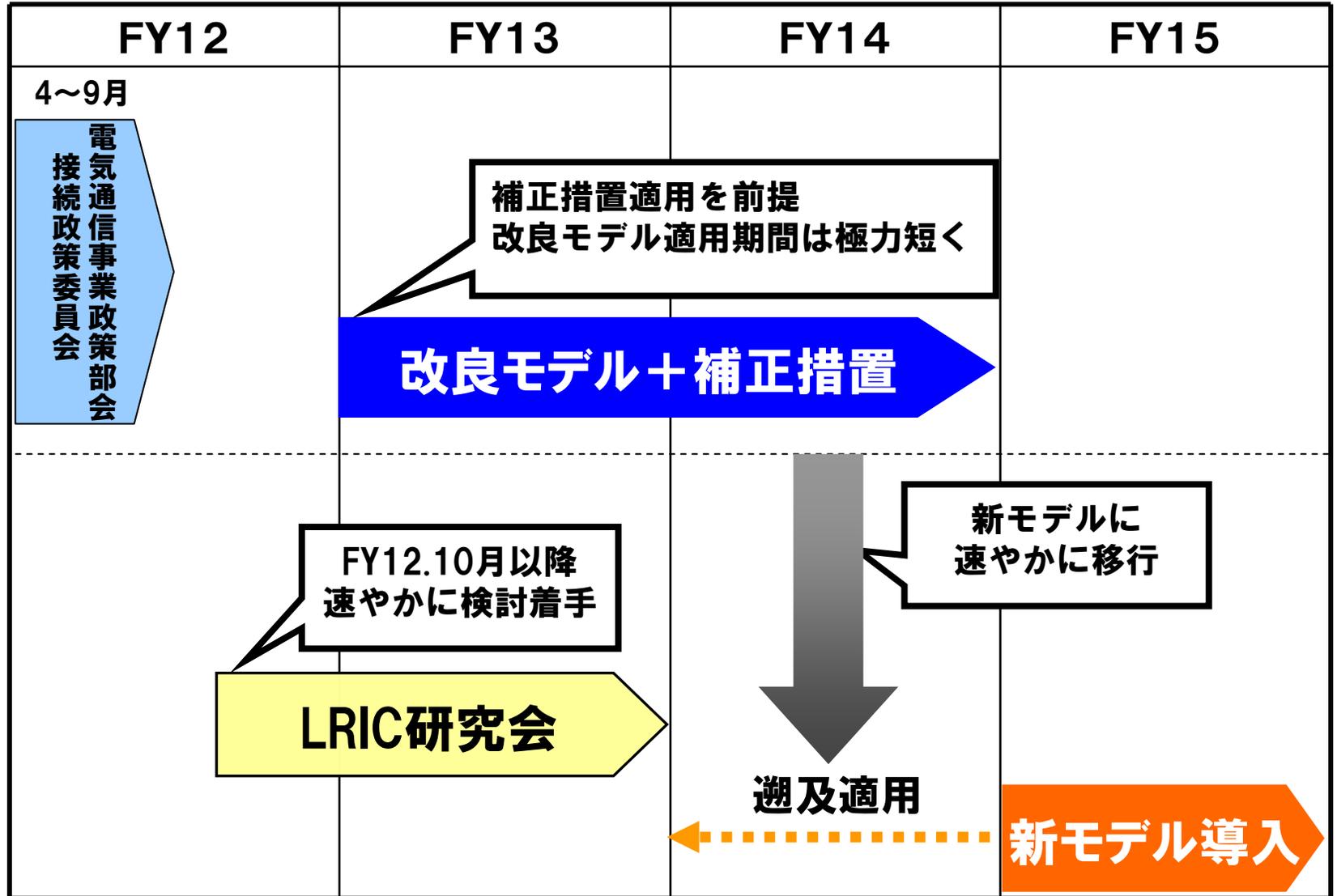
短期的
対策

② LRICモデルに最新技術が導入されていない

新モデルの開発
最も低廉で効率的な最新の技術をベースに、より効率的なNWコストを算出

長期的
対策

スケジュール



改良モデルの補正措置案①

1. 分割損の課題

ひかり電話の移行による分割損の問題を解消するため、PSTNとひかり電話の共用を前提とした算定を行うことが必要

考えられる補正案

トラヒック調整	PSTN定常	IP(ひかり電話)トラヒックも含めPSTNを利用している(定常的)と仮定	推奨
	需要加重平均	PSTNとひかり電話トラヒックで加重平均	
IP化によるNWの効率化 上乘せ	料金据え置き	基準年を設定しその接続料を適用	
	目標値を設定	ターゲット水準を設定し上限値とする	



上記補正案の中では、PSTN定常(【参考②】参照)が計算ロジックの点でも明快であり**最も適切**

※ ユニバーサルサービス制度に係る補填対象コストは、ひかり電話の需要を含め算定

改良モデルの補正措置案②

2. 減価償却費の問題

LRIC費用では新規に構築した設備の償却費が発生するのに対し、
実際費用では、減価償却済設備の比率が高い

※現行LRICモデルでは、新規取得が発生しない旧来の交換設備等を採用



減価償却が完了した設備について考慮し、実際費用と
LRIC費用の差分について是正すべき

【例】

実際費用における償却済設備の比率を用い、LRICにおける取得価額を補正

改良モデルの補正措置案③

3. NTSコスト控除

NTSコストのうち、き線点RT-GC間伝送路コストは、「当分の間の措置」(*)として接続料に算入されたもの。



- ・ 暫定的に入れられているNTSコスト(き線点RT-GC間伝送路コスト)は除外すべき
- ・ なお、ユニバーサルサービス制度への影響を考慮し、段階的な控除を行うことも一案

※平成20年度以降の接続料算定の在り方について 答申
「き線点RT-GC間伝送路費用は、あくまでも当分の間の措置として、従量制接続料の原価に算入し、NTT東西の利用部門を含む接続事業者が公平に負担するという形にすることもやむを得ない」

新モデル開発について

- ・最も低廉で効率的な技術と設備により、効率的NWコストを算出するため、**IPをベースとしたモデル(IP-LRICモデル)を適用すべき**
- ・**そのため、新モデル開発に向けた検討を速やかに開始すべき**

【具体的な検討の進め方】

■ 検討期間

2012年10月～2014年3月(1年6ヶ月)

■ モデル適用開始

2014年4月

※2014年接続政策委員会において遡及適用含め判断

■ 検討体制

LRIC研究会およびWG(IPNWを想定し参加事業者を再考)

- 1. PSTN接続料の課題**
- 2. 改良モデルの課題**
- 3. 課題解決に向けた提案**
- 4. その他委員会での検討事項**
- 5. 参考資料**

その他検討事項

接続料における東西格差

- ・ NTT東西は別会社であるため、それぞれのコストに基づき設定されるPSTN接続料には、当然ながら格差が生じうる
- ・ 東西別接続料が設定されているひかり電話トラヒックが増加している状況をふまえ、原則として、PSTN接続料についても東西別接続料の導入を検討すべき

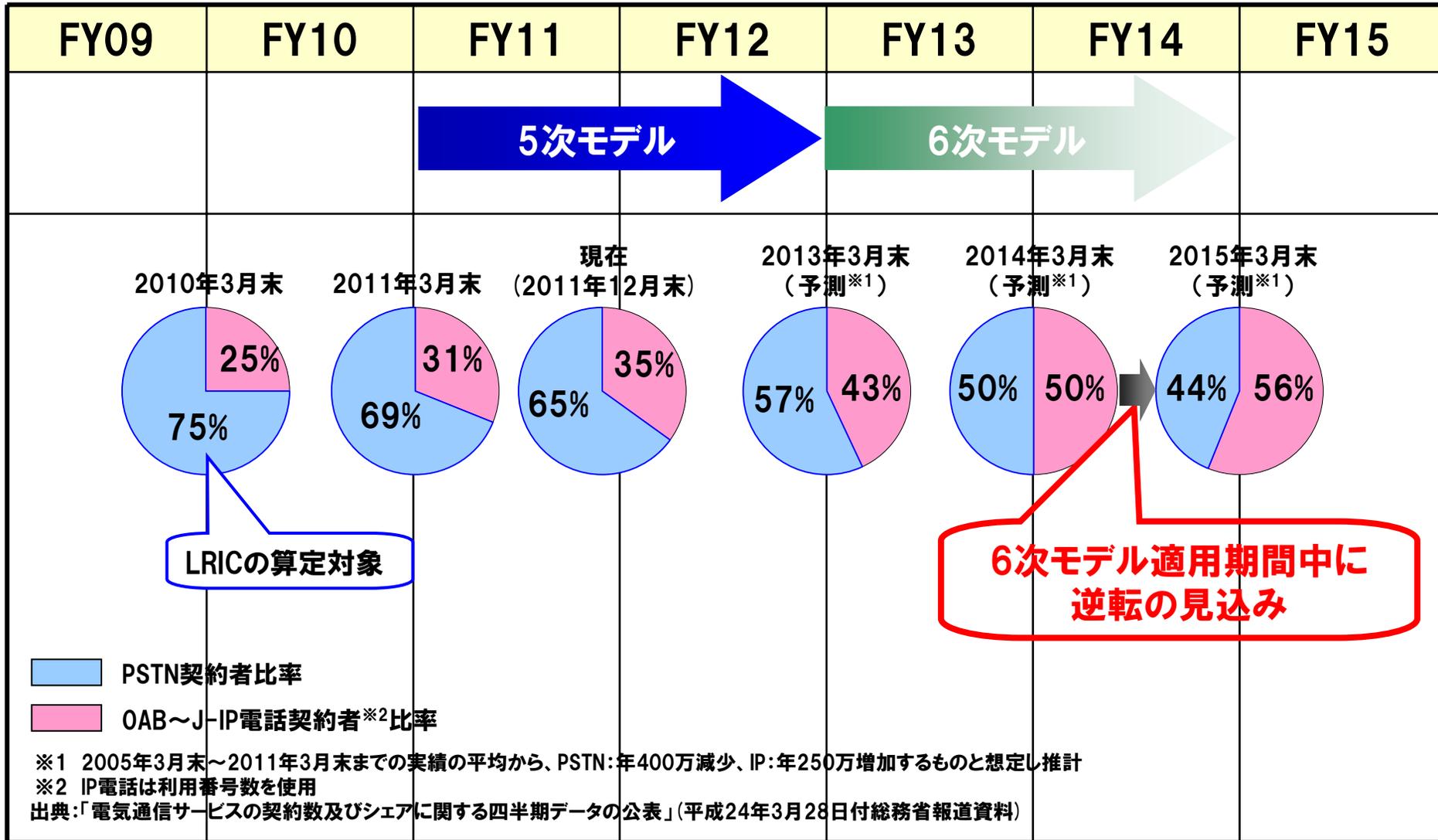
入力値（通信量等）の扱い

- ・ 「前年度下期と当年度上期の予測通信量」(8ヶ月分を予測)から変更する必要なし

※PSTN定常の考えを取り入れ、ひかり電話トラヒックを含める必要あり

- 1. PSTN接続料の課題**
- 2. 改良モデルの課題**
- 3. 課題解決に向けた提案**
- 4. その他委員会での検討事項**
- 5. 参考資料**

【参考①】PSTNからIP網への移行の進展



【参考②】PSTN定常

概要

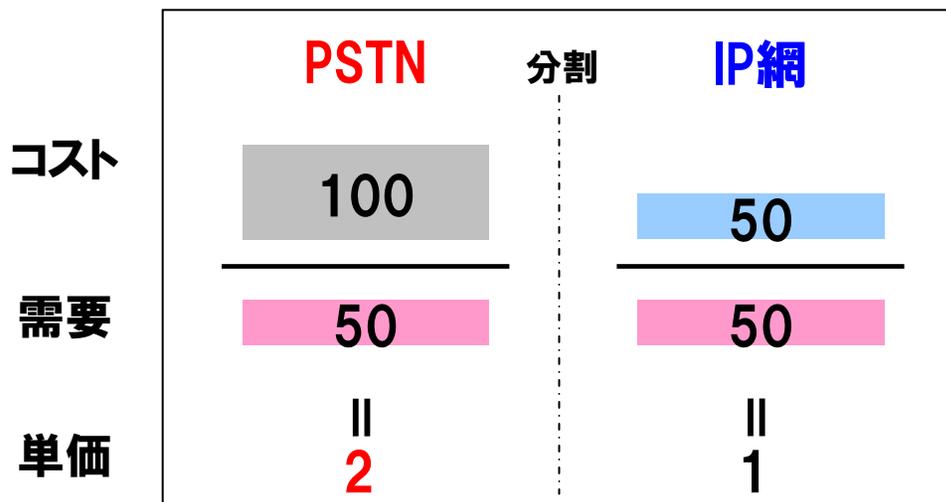
- ・ IP(ひかり電話)トラヒックも含めPSTNを利用している(定常的)と仮定して効率的コストを算出
- ・ 現行LRICモデルを利用可能
- ・ 適用対象はPSTN接続料のみ

導入事例

- ・ 英国BTにおいてプライスカップの前提としてPSTN定常モデルを適用(2009年10月～)

※数値はイメージ

【現状】



【PSTN定常】

